

2026年春季特別展
古代黄金の物語



ペンダント付トルク
アケメネス朝ペルシア 前4世紀
金、ラピスラズリ、紅玉髓、トルコ石、ガラス
H: 26.0cm W: 25.7cm 重: 422.5g
MIHO MUSEUM 蔵

MIHO MUSEUM（所在地：滋賀県甲賀市信楽町田代桃谷 300、館長：熊倉功夫）は2026年（令和8年）3月14日（土）～6月7日（日）までの期間、春季特別展「古代黄金の物語」を開催いたします。

黄金—古代から人々を魅了し未来永劫その輝きを失わず、神々への捧げもの、王侯貴族の証、死者への供物として利用されてきた金属。

本展覧会では所蔵の黄金作品に国内有数のコレクションを加え、紀元前に制作された選りすぐりの作品と、作品の背後に隠れた黄金の歴史・技法から所有者の営みまで、その背景をわかりやすく展示解説します。

世界的にも珍しい数々の黄金作品、各時代の人々が最上の技術を駆使して作り上げた至宝を、どうぞご堪能下さい。

開催概要

黄金—未来永劫その輝きを失わないこの金属に、人々は古代から魅了されて来ました。黄金は自然界に輝きながら存在します。鉱石を砕いて取り出すか、水中に堆積した砂金を掬い取れば、そのまま金が手に入ったのです。

黄金の歴史は古く紀元前 5000 年紀、黒海沿岸に位置するブルガリアのバルナの墓から 3000 個もの金製品が見つかっています。紀元前 3000—2000 年紀になると、古代オリエント世界の各地で黄金文化が見られるようになりました。エジプト・メソポタミアはもとより、黄金の産出地にほど近い西中央アジアでは、極めて優れた黄金作品を制作しています。

本展覧会では所蔵の黄金作品および国内有数のコレクションから、紀元前の名品を選びすぐって展覧します。また作品の背後に隠れた黄金の歴史・技法から所有者の営みまで、その背景をわかりやすく解説します。

天然の金銀合金・エレクトラムで鑄造されたオリエントの奇妙な神像、黄金の器に刻まれた聖なる動物や植物たち、黄金上に描かれた戦勝とその持ち主の運命、神殿に捧げられた莫大な黄金には人々の切実な願いが込められ、可憐な花嫁の飾りには幸せへの期待が満ちています。一方、漢時代の中国では、皇帝が天馬と交換するために黄金製の馬を用い、古代のアメリカでは黄金が太陽の象徴として王の頭上に輝きました。

世界的にも珍しい数々の黄金製品、各時代の人々が最上の技術を駆使して作り上げた至宝を、どうぞご堪能下さい。

- ◇ 展覧会名：2026 年春季特別展「古代黄金の物語」
- ◇ 英語タイトル：Tales of Ancient Gold
- ◇ 会 期：2026 年 3 月 14 日（土）～ 6 月 7 日（日）
- ◇ 会 場：MIHO MUSEUM
〒529-1814 滋賀県甲賀市信楽町田代桃谷 300
TEL.0748-82-3411 URL: <https://www.miho.jp>
- ◇ 開館時間：午前 10 時～午後 5 時 【入館は午後 4 時まで】
- ◇ 休 館 日：月曜日
- ◇ 入 館 料：一般 1300 円、高・大生 1000 円、中学生以下 無料
【20 名以上の団体は各 200 円割引】
- ◇ 交 通：J R 琵琶湖線「石山駅」より帝産バス MIHO MUSEUM 行 50 分、
お車で新名神「信楽 IC」より約 15 分
- ◇ 主 催：MIHO MUSEUM、京都新聞（予定）
- ◇ 後 援：滋賀県、滋賀県教育委員会、NHK 大津放送局、BBC びわ湖放送、
エフエム京都、帝産湖南交通

◇ 担当学芸員：東 容子 (MIHO MUSEUM 学芸員)

◇ 展示総数： 240 件を予定

◇ 展示構成：

- 1 章：黄金とエレクトラム
- 2 章：角と翼と植物と - オリエントの精神世界
- 3 章：黄金に描かれた栄枯盛衰
- 4 章：装飾技法—フィリグリーと粒金細工
- 5 章：バクトリア遺宝—神殿への捧げもの
- 6 章：イタリアとギリシアの精華
- 7 章：中国古代の黄金
- 8 章：古代アメリカの黄金

◇ 巡回予定会場： 岡山市立オリエント美術館

開催予定期間： 2026 年 9 月 12 日 (土) ～11 月 23 日 (月・祝)

◇ 講演会：

2026 年 4 月 11 日 (土) 「今に繋がる古代の技」

講師：長井 豊 氏 (Bottega NAGAI 工房主宰)

2026 年 4 月 25 日 (土) 「古代金器は語る」

講師：稲垣 肇 (MIHO MUSEUM 学芸部 主任研究員)

2026 年 5 月 17 日 (日) 「黄金に美を求めて」

講師：有川 一三 氏 (アルビオン アート(株)代表取締役)

2026 年 5 月 30 日 (土) 「古代黄金の物語」

講師：東 容子 (MIHO MUSEUM 学芸部 特任学芸員)

いずれも 14:00—15:30

定員：100 名 参加費無料 (入館料要) 予約不要。当日美術館棟受付にて整理券配布。

場所：MIHO MUSEUM 美術館棟 南館レクチャーホール

代表作品

キャプションの表記について

- ◇ 作品名、作者名（ある場合）、時代、撮影者名（ある場合）、展示期間（ある場合）、所蔵者名の表記は必須です。上記以外は、スペースが可能であればご掲載ください。

本リリースに掲載の画像データ提供について

- ◇ 作品画像をご希望の際は、広報担当デスク（オズマピーアール：miho-prd@ozma.co.jp）にご連絡ください。



ペンダント付トルク（部分）

アケメネス朝ペルシア 前4世紀

金、ラピスラズリ、紅玉髄、トルコ石、ガラス

H:26.0cm W:25.7cm 重：422.5g

MIHO MUSEUM 蔵

黄金の台に細かい区切り付け、貴石やガラスが象嵌されています。四角いペンダントには幸運を授けるフワルナと、遊牧民を追いかける勇壮なペルシア騎兵が表わされています。これほど豪華なトルクは、ペルシア王から武勲を立てた英雄に下賜されたものかもしれません。ところが裏面にはギリシア語で重さが書かれ、後にこの宝物がギリシア人の手に渡ったことを暗示します。更に布地の痕跡は墓に納められたことを示唆し、作品の数奇な運命を物語っています。

【展示概要】

1章：黄金とエレクトラム

黄金は自然界にどのように存在するでしょう。鉱石や砂金から取り出され、純度の高いものは金と呼ばれましたが、他金属との合金として存在するものもありました。エレクトラムは天然の金銀合金で、古代においては金とも銀とも異なる第三の金属とみなされ、珍重されたのです。色の違いと神秘の造形をご覧ください。



有翼神霊坐像



有角神霊坐像

東イランか

紀元前 3000 年紀末—紀元前 2000 年紀初

MIHO MUSEUM 蔵

2章：角と翼と植物と - オリエントの精神世界

黄金は古代エジプトでは神の肉体と見做され、イラン周辺では聖なる意匠として山羊・牛・鹿など角のある動物、猛禽や聖樹が器を飾りました。神に捧げる器に付けられたリアルで優れた造形です。



牡牛裝飾脚杯

イラン北西部

紀元前 12—紀元前 11 世紀

MIHO MUSEUM 蔵



動植物文脚杯

北西イランか

前 1 千年紀初

MIHO MUSEUM 蔵

3章：黄金に描かれた栄枯盛衰

アッシリア王・アッシュルバニパルが持っていた器には、戦争の後で敵王を捕虜とし、軍楽隊を率いて凱旋する姿が刻まれています。ところがそこに、勝者の運命を示す秘密も隠されていたのです。メソポタミアからイランへ、大きな死生観の変化が見られます。



戦勝図杯
イラン西部/アッシリア
前7世紀
MIHO MUSEUM 蔵



雄鶏形容器
前アケメネス朝ペルシア
前7 - 前6世紀
MIHO MUSEUM 蔵

4章：装飾技法—フィリグリーと粒金細工

金線と金粒を使った黄金の装飾は、紀元前3000年紀メソポタミアのウル王墓にすでに見られます。特に微細な金粒を貼り付ける粒金細工は、漢時代の中国まで伝わりましたが、歴史の中で失われては再発見される高度な技法です。古代の超絶技巧とその分析結果を併せてご覧下さい。



金帯
メソポタミアかイラン西部
前3 - 後3世紀
MIHO MUSEUM 蔵



金帯部分



帯鉤
中国・漢時代
前3 - 後3世紀
MIHO MUSEUM 蔵

5章：バクトリア遺宝—神殿への捧げもの

中央アジアのバクトリア地方は、古来豊富な黄金を産出することで有名です。前4世紀のアレクサンダー大王遠征以降、地域の拝火教の神殿には、伝統意匠の金製品に加え、ペルシア文化、ギリシア文化の香り高い作品など、まばゆいばかりの黄金が奉納されました。



神官小像
中央アジア
前6世紀後期
MIHO MUSEUM 蔵



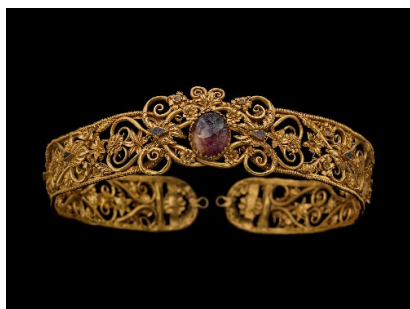
香炉
中央アジア
前5-前4世紀
MIHO MUSEUM 蔵



獅子頭裝飾腕輪
中央アジア
前2世紀
MIHO MUSEUM 蔵

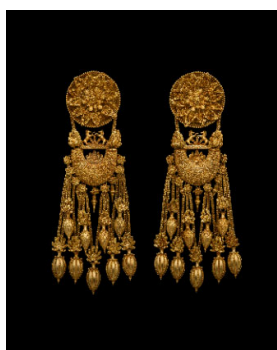
6章：イタリアとギリシアの精華

イタリア半島で紀元前1000年紀に栄えたエトルリア文明は、目に見えぬほどの微細な粒金細工を駆使し、続くヘレニズム文化では、優雅な花や人物意匠の装身具、金を含むガラス製品なども生まれました。洗練の極みとも言われる品々をご覧ください。



インタリオダイアデム（額飾り）
ヘレニズム期
前4-前3世紀

Private collection, courtesy of Albion Art Jewellery Institute



ゴールドイヤリング
ヘレニズム期
前4世紀



ゴールドバンド壺
ヘレニズム期
前1世紀
MIHO MUSEUM 蔵

7章：中国古代の黄金

中国の黄金文化は西方の影響を受け、紀元前 1000 年紀後半の戦国時代から漢時代には、祭祀に使用する容器や装身具に、金の装飾が盛んに行われました。中でも漢の武帝が西方の優れた馬と交換するために、黄金の馬を造らせた話は有名です。



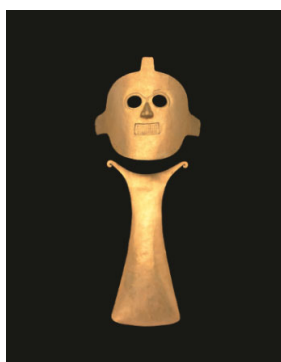
馬小像
中国 前漢
前 2 世紀
MIHO MUSEUM 蔵



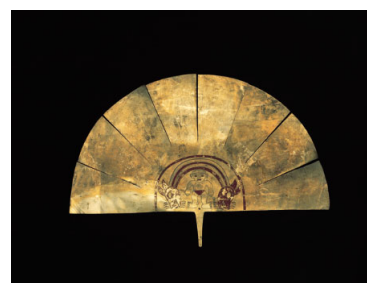
玉象嵌帯鈎
中国
前 4 - 前 3 世紀
MIHO MUSEUM 蔵

8章：古代アメリカの黄金

古代アメリカの黄金製品は前 5 世紀頃から現れ、太陽の光と神力を宿すものと考えられました。多くの王は神官をも兼ねており、黄金の仮面や黄金の頭飾りなどを身に着けることで、太陽の力にあやかり一族に繁栄をもたらすと信じられていました。



太陽の仮面と胸飾り
マラガナあるいはカリマ、コロンビア
前 2 - 後 2 世紀
MIHO MUSEUM 蔵



前立飾
モチエ、ペルー
前 1 世紀 - 後 3 世紀
MIHO MUSEUM 蔵

MIHO MUSEUM について

■ 自然・建築・美術品が調和した桃源郷

MIHO MUSEUM は 1997 年 11 月に琵琶湖の南、信楽の山中に誕生しました。建築設計は、パリ・ルーヴル美術館のガラスのピラミッドを設計したことで知られる I.M.ペイ。

枝垂れ桜のプロムナードを通り、銀色に輝くトンネルをくぐると、吊り橋の向こうに美術館棟が現れる設計は、中国詩に描かれた桃の花に導かれ洞窟を抜けた先に現れる楽園「桃源郷」をテーマにしています。

美術館棟は、建築容積の 80%以上を地中に埋設し、建物の上にも自然を復元しています。



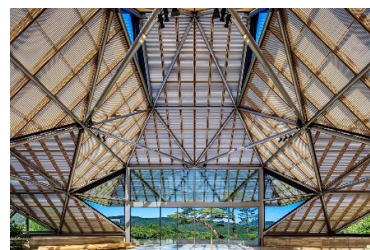
美術館棟へ続くトンネルは、枝垂れ桜の咲くころは桜色が映り込み、新緑の季節は緑色が反射して、季節ごとに楽しませてくれます。

■ コレクション・常設展示・特別展

所蔵品は、エジプト、ギリシア・ローマ、西アジア、中央アジア、南アジア、中国、朝鮮、古代アメリカなどの古代美術と、仏教美術、茶道美術をはじめ、絵画、漆工、陶磁器などの日本古美術をあわせて約 3,000 件からなります。

北館では、季節により国内外からの出陳を加えて、開館ごとにテーマ性を持った特別展を開催しています。

南館では、エジプト、西アジア、南アジア、中国・西域の 4 つのギャラリーで古代美術の名宝を展示しています。



エントランスホール

■ 報道関係のお問い合わせ先：

MIHO MUSEUM 学芸部 広報：西郡 哲也、木曾 啓一郎

TEL. 0748-82-3452 (直) FAX. 0748-82-3414 e-mail: information@miho.jp

〒529-1814 滋賀県甲賀市信楽町田代桃谷 300

広報担当デスク：(株)オズマピーアール関西支社 担当：福村、川端

TEL.06-6205-9800 FAX.06-6205-9801 e-mail: miho-prd@ozma.co.jp

〒541-0046 大阪市中央区平野町 2-4-9 淀屋橋 PREX10F

■ 一般の方のお問い合わせ先：MIHO MUSEUM (ミホ・ミュージアム)

TEL.0748-82-3411 FAX. 0748-82-3414 e-mail: information@miho.jp

<https://www.miho.jp> 〒529-1814 滋賀県甲賀市信楽町田代桃谷 300